

静岡文化情報

1994
AUTUMN

街かど

創刊号

「安倍川原」(型絵染)1933年頃 芹沢銈介作 静岡市立芹沢銈介美術館所蔵



財団法人 静岡市文化振興財団

創刊に当たって



(財)静岡市文化振興財団理事長
吉川 晴夫

地に根ざした、より豊かな静岡文化の育成と創造を期して、ここに静岡市文化振興財団が発足しました。はからずも、このたび、私は関係の皆様共々、この組織活動推進の

ための大任を担わせていただくこととなり、改めて責任の重さを痛感しております。

「文化」という言葉は、特に近年、実に様々な意味を含んで広く使われております。

国や地方自治体の各種の公用語としてはもとより、企業、民間等の多くの機会や場においても、急速に使用頻度を高めています。

このような「文化」への強い希求は、まさに、急激な物の豊かさがもたらした数々のひずみに対して、人が、その本来の「心」の姿に立ち返って生きようとする意志の必然的な表われを意味するものであろうと思います。

そして、この切実な願望の根本には、何よりもまず、みずからの住む地域社会の中に、かけがえのない有形無形の価値を再確認し、それを共有の文化として、愛情と誇りを持って分かち合いたいという願いがあるに違いありません。

この願いに応えて、わが郷土、静岡の「まちかど」には、まさしく、純粋で、素朴で、温かく、潤いのある文化の命が限りなく潜んでいます。

その一つ一つを丹念に掘り起こそうと、当財団は、ここに、「市民が主役」の確固たる基本方針の下、事務局一丸となって、ひたむきに歩み始めました。

市民の皆様、厳しく温かいご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

* * *

創刊に寄せて



静岡市長
小嶋 善吉

静岡文化情報「街かど」創刊号の発行おめでとうございます。懸案の(財)静岡市文化振興財団が去る7月に発足し、年度途中とはいえ活動が展開され始めましたことに大き

な期待を寄せております。

最近の人々の動向をみますと、自由時間の増大、所得水準の向上、また高齢化の進展等を背景に物質的なものから精神的なもの、つまり文化活動へと重心を移しつつある傾向がみられます。

しかし、文化には眼に見える効果をすぐには与えられないかも知れませんが、心の総合栄養剤としての効果を発揮し、街が生きいきしたものになっていく原動力といえましょう。

よく教育は充電、文化は放電と言われるように、文化の主人公は住民の方々自身にあり行政は後押しをする役目をもっております。

文化振興財団は、市民の方々の持つ自由で柔軟な発想や独創性を活かし、行政と一体になって皆様方が「放電」し易いようにつくられた団体だけに、これからの活動に大きな期待を寄せております。

私たちは、物質的豊かさのみでは本来満足できるものではないと思います。物質的豊かさに加えて心の糧としての文化に接することにより、知ること、考えること、創造すること等の喜びを感ずることができると思います。

これらの喜びは、私たちにとってかけがえのない生きがいであるといえましょう。

かつて「太った豚よりやせたソクラテスになれ」と言った人がいましたが、それよりも物心両面に恵まれた「太ったソクラテス」の方が人間としては魅力的であります。

最後に、産学官民一体となって文化の香りただよう静岡市をめざして動きだした(財)静岡市文化振興財団のご発展を祈りつつ、ごあいさついたします。

CONTENTS

創刊に当たって	(財)静岡市文化振興財団理事長	吉川晴夫……1
創刊に寄せて	静岡市長	小嶋善吉……1
対談 「(財)静岡市文化振興財団とは」		2
	－文化の香りただよう街をめざして－	
	語る人／(財)静岡市文化振興財団専務理事	和田 脩
	聞く人／「女性談話室しずおか」主宰	寺田朝子
静岡音楽館にいだく夢	静岡音楽館AOI芸術監督	間宮芳生……6
静岡音楽館プロフィール		7
文化のルーツを求めて①		
現代に生き続ける人間国宝芹沢銈介の美	静岡県工芸家協会会長	増田猪富……8
市民の声	石川たか子・西谷祐一	……9
市民のための文化財団を願って	静岡市文化団体連合会会長	小川治康……10
	－静岡市文化団体連合会構成団体－	
第17回全日本おかあさんコーラス全国大会で優勝	静岡フラウエンコール指揮者	藤井京子……11
INFORMATION		12
編集後記		13

●対談

(財)静岡市文化振興財団とは

文化の香りただよう街をめざして

語り手／(財)静岡市文化振興財団 専務理事 **和田 脩**
聞き手／「女性談話室しずおか」主宰 **寺田 朝子**

市役所本館「階には「市民ギャラリー」がある

利用者の立場にたった、利用者のための文化施設運営をめざして

寺田 まず、財団誕生のいきさつからお話ししたいのですが…。
和田 今なぜ「文化財団」かと申しますと、まず第一に、市民の生涯学習や芸術活動に関するニーズの高まりがあげられます。暮らしに内面的ゆとりや充足を求める市民の欲求は非常に高くなっています。もう一つは、街づくりという視点ですね。経済活動を中心にした街づくりが日本中でおこなわれ

てきた結果、どこを切っても金太郎飴的な個性のない街がうまれてしまった。その反省の上になって21世紀にむけての本当に魅力のある豊かな街づくりとは何かを考えると、どうしても個性化という課題が出てくるわけです。その個性化のひとつの手段としての文化性、それらにどう対応していくかが問題になってくるわけです。

寺田 市民の文化性を育て、都市の個性化をはかるには、どうしたらよいかということですね。

和田 そうなんです。文化の担い手は誰かという、結局は個人もしくはサークルなんですね。そういう人たちを育てる生涯学習とか芸術文化活動の場を、行政がどうサポートしていくかということなんです。行政にはいろいろな制約がありまして、なかなか自由な発想ができにくい、それならいっそのこと民間的な機能を持った財団のようなものにその仕事を委ねたらどうか、もっと市民にとって適正なサービス、サポートができるんじゃないか、そんな考え方からこの財団が誕生してきたわけです。

寺田 具体的にはどんな活動をしていくのですか？
和田 今までは、自治体がホールであるとか文化施設を管理運営してきましたね。それでどうかといいますと、例えば、ホールでの催しがとても盛り上がり後10分延長して欲しいという場合でも行政の返事はおむねNOでした。行政には、規律や秩序を重んじなければいけないという体質がありま

語り手プロフィール



(財)静岡市文化振興財団
専務理事
和田 脩

大学卒業後、昭和35年静岡市役所に採用され、平成6年静岡市役所退職。この間、商工部長、教育委員会社会教育部長を歴任し、専門をいかして生活文化、芸術文化の振興に寄与。平成6年より現職。



すから、担当者としては応じたいけれども、行政という枠の中では応じることができない、そういうきわめて弾力性に乏しい面があったわけです。それを財団化することによって、市民サイドにたった運営にかえていきたいというわけです。静岡市では今、駅前に音楽用のホールを作っています。これが来年にはオープンします。また、中勤助文学記念館も同じく来年オープンします、さらに生涯学習の分野でも、公民館と図書館が2館ずつ増設されます。こんな具合に、文化施設の増設の機会をとらえて、それらの施設の企画運営を財団が受け持っていくということになったわけです。

民間の自由な発想と行政の管理能力を結合して、新しい活力に

和田 今までは、ホールができあがると、その管理運営を財団が受け持つという具合に、施設単位で財団化されていくといったケースが多かったのですが、静岡市の場合、これまで行政がやっていた役

割そのものを財団が受け持ち効果的、かつ効率的に運営していく、行政側が財団に仕事の一部を委ねるという形をとっているところに特色があるわけです。

寺田 財団の役割が非常に大きくなっているということですね。
和田 生涯学習から、芸術文化活動まで、今までは行政がやっていたことを、広い範囲にわたって財団が対応していこうというものです。ですから音楽ホールに限らず対象の範囲は非常に広いわけですね。それが、他都市の文化財団と静岡市のめざす財団との違いということになりますか。

寺田 例えば、来年オープンする音楽ホールについて、具体的にお話し頂くと…。

和田 ホールの管理運営から企画まで、全てが財団に委ねられる予定です。いいホールというのがどういうホールかということは、立場によっていろいろ違うわけですが、演奏家は真夜中まで練習できるホールが欲しいといいます。ところが行政の管理するホールでは

9時以降はご遠慮くださいということになる。そんな対応も、財団だったらもっと自由にもっと柔軟にできるわけです。

いいかえれば、それだけ市民の皆様がいい音楽を聞いてもらうことができるということ。もう一つは、主役である市民の参加と民間活力の導入ということ。民間の持っている自由な発想とか経営のセンスと、行政の持っている財政力、企画力、事務能力とが一体化して文化の振興をはかっていくことになるわけです。

寺田 ヨーロッパでは、美術館などで自由にパーティができるといいますね。少し頭を柔らかくすれば、そんなことも可能になりますね。

和田 日本でも、横浜や京都の美術館では、そういうことをすでにやっています。財団化することで、今までよりずっと市民サイドにたった柔軟な運営が可能になる、また、それが課題でもあるわけです。

寺田 何だか面白くなりそうですね。大切なことを聞き忘れていた



のですが、財団の運営資金は？
和田 静岡市が1億5,000万円を出資して、この資金運用利息を基金にするわけですが、それだけではとても活動しきれません。従って補助金ということになるのですが、すべての経費を税金で賄うということは不可能ですから、民間の協力を頂いて、それによって行政の支出を削減していくという意図も財団化の中には含まれています。



▲旧マッケンジー邸

高い専門性と若々しい感性で、静岡に新しい文化の風を巻き起こす

寺田 これからの具体的な活動について、お聞かせください。

和田 大きな柱としては、国際音楽祭と市民音楽祭を隔年でやっていく予定です。それ以外にも自主事業を年間20回ほど組んだらどうだろうかと思っています。国際音楽祭と市民音楽祭とは、規模も違うし費用にも差がありますが、いずれにしても1億円前後の予算枠でいこうと考えています。それらの事業も財団に委ねられることとなります。よくハードはつくったけれど、貸し館オンリーで本当には機能していないんじゃないかという声を聞きますが、私たちの

ホールはこの地域の音楽文化の振興の拠点として使っていくというのが基本理念です。

寺田 音楽というのは、非常に専門的な分野ですから、自主的に企画をするといっても、かなり専門的な知識や能力が要求されると思うのですが、その対応は？

和田 そのための企画会議というのを設けています。まず音楽ホールの芸術監督は、間宮芳生先生にお願いしました。国際音楽祭レベルの企画をということで、企画委員には、大岡信さん、野平一郎さん、栗林義信さん、高橋アキさん、国立劇場の芸能部演出室の田村博巳さん、地元の音楽関係の方たち、さらに事務局としてサポートする音楽専門の学芸員を3名採用しま

した。そのメンバーが企画を進めていきます。

寺田 専門家の知識と若い感性が企画にいかされたら、きっとステキなホールになりますね。

和田 音楽というジャンルにつきまちは、浜松でも力をいれていますから、静岡は静岡なりのコンセプトを持って、独自の企画を進めていかなければいけないと思っています。

寺田 中勤助文学記念館の方は？

和田 「銀の匙」で有名な中勤助さんなんですけど、たまたまこの方が、療養を兼ねて戦争中から戦後にかけて静岡市の羽鳥にお住まいになっていたんですね。その時の建物が残っていたのを行政で買い取りまして、先生が住んでいらした頃のように復元して、「中勤助文学記念館」としました。これから文芸活動関係の方たちの拠点として機能させていくことになります。これも財団に運営が委ねられる予定です。さらにジャンルとしては、舞台芸術がありますが、こちらにつきましては、静岡県と静岡市がどう交流をはかっていくか、財団もかかわっていきたくと思っています。



◀勤労青少年ホーム料理教室

寺田 音楽と文学と演劇と、あと美術がありますね。

和田 現在は静岡市役所の本館に市民ギャラリーがありますが、あれだけでは足りないで美術関係についても新たな拠点を検討中です。近々にも行政サイドの動きが出てくるんじゃないかと、これも期待していただいているんじゃないかと思っています。

街角コンサートやパフォーマンス いつでも文化の香りのする街に

寺田 静岡市は県都でもありますし、やっぱり文化都市としての機能を充実していった欲しい、それが市民の願いだと思うのですが。

和田 そうですね。既存のものでいいかと、静岡市には、芹沢銈介美術館、登呂博物館もあるわけです。これらの施設とも今後財団としてどうかかわって行くかが課題になっています。特に登呂遺跡については、市は再整備の検討に入っています。登呂そのものを社会にどう提示していくかの全体計画の中で、登呂博物館のあり方も見直していくべきです。いずれにしても、施設のもつ機能を最良のサービスをもって社会に提示することです。芹沢美術館にしても、登呂博物館にしても、財団に委ねるに当たっては、行政の直営では得難いサービスを見出す、その工

夫が求められます。行政のみの感覚でなく、民間からもノウハウをいただいて、よりよい形に実現していく努力が必要ではないかと考えています。

寺田 一つ一つの独立した施設が財団という組織の中にネットワークされ、大きな視野から運営されていく、そういうことになっていくわけですね。

和田 生涯学習にしても、芸術活動にしましても、最終的な主役は市民です。財団はそれをサポートするのが役割です。行政の持っている厳しき、秩序に弾力を持たせ、ソフトの部分では民間のノウハウが出来るようにしていく、この財団の意図したところ、行政の自覚をしたところを実現していくには、かなりの発想の転換が必要ですが、この財団が機能することによって、静岡市の文化の高揚、

振興はかなり明るくなっていくものと思っています。

寺田 静岡の文化の未来が、双肩にかかっていることですから、頑張らなくてはいけません。

和田 文化というのは、何も施設だけに限ったものではなくて、街を歩いていて思いがけず出会う街角のコンサートやパフォーマンス音楽会やギャラリーの催し、そういうもの一切を含めた文化の香りのある街を創っていくことだと思います。またそういうことに関心の深い市民がたくさん居ることが大切なんです。そういうものに財団がどうかかわっていくか、それがこれからの課題ではないかと思っています。

寺田 静岡市民みんなが文化振興の今後の活動に期待していることだと思います。本日はありがとうございました。

「女性談話室しずおか」
 主宰
寺田朝子

聞き手プロフィール

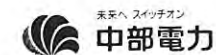


大学卒業後、公立学校教員となるが子育てで一時中断。1981年「女性談話室しずおか」を主宰し、現在、タウン誌「パンの耳」の発行のほか、講演会、コミュニティ番組、出版等の自主企画を行っている。

将来の電気を考えます。



電気は私たちの生活に欠かすことのできないエネルギーです。将来に渡り、安定した電気をお届けするため、安全を最優先に原子力発電をすすめてまいります。



静岡音楽館にいだく夢

静岡音楽館 A O I 芸術監督
（助静岡市文化振興財団理事）

間宮芳生

おそらく静岡市民みんなが想い描いていた音楽館の建物が姿を現し、もう完成目前になりました。

音楽館の自主事業の音楽祭その他は、文化振興財団の仕事のうちで大事な中核をなすに違いないと思います。芸術監督の仕事はその意味で責任も重いですが、同時にやりがいのある仕事です。心が引きまると同時に楽しみな仕事です。

お願いした5人の企画委員、そして10人の市民会議の委員の方たちの熱意と創意がとてもいい形にあつまって、内容豊かなコンサートのシリーズの企画が続々と出来上がっています。パンフレットになって発表されたように、開館年（1995年）のためには、5人の企画委員と私が中心で企画した音楽祭のプログラムが出来ました。1996年のためには、市民会議と私が相談し合って、地域に住む人々の文化への創意をあつめた、これまたすばらしいプランが固まって来ています。

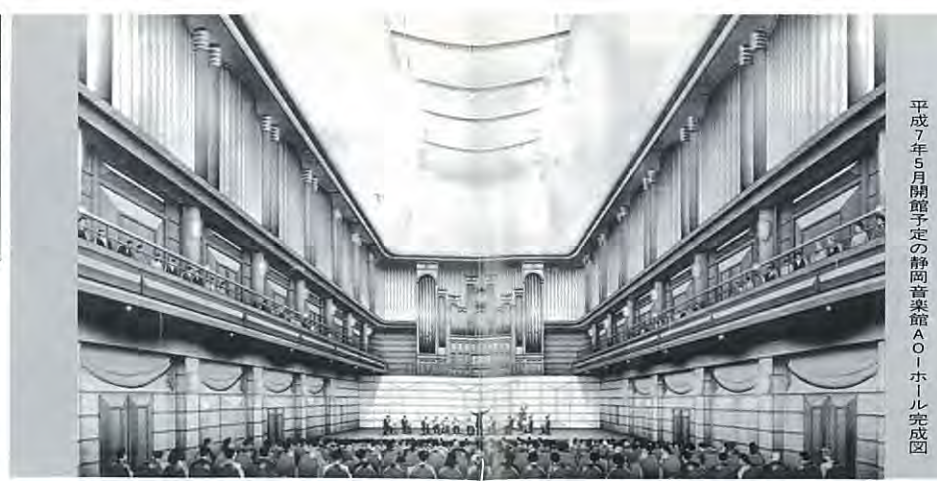
開館の年の音楽祭は、5・6月の約1ヵ月の春シリーズ、7月後半の夏シリーズに集中させて計19のコンサートです。他に約20日間の秋シリーズも企画されていますが、こうした短期集中型は、いわ

ば音楽館と市民のための音楽の「ハレ」の日々をつくること、ここで鳴り響く音楽が聞き手と音楽、市民達と音楽家達との間に密度の濃い、しかも身近な生き生きとした関係をつくることを願ってのことです。

パンフレットの中でも述べたように、内外の各種音楽祭に参加した経験を思い起こしながら、企画に5つの柱を立てました。それは①ルネッサンスから現代までの種々の室内楽、声楽。②日本の伝統音楽とその現代的な展開。③日本と世界の民俗音楽。④音楽外諸分野、詩、演劇その他とのクロスオーバー。⑤親子、つまり世代をつなぎ次代を創る音楽鑑賞力のくさりを創ること。

この5つの柱を通じて大切なことは、日本と外来とを問わず、ことに日本の、才能豊かな音楽家たちの意欲と能力を最高にひき出すようなプログラムを提案し、熱のこもった演奏をひき出すことだと思っています。

開館の年に初演を予定している委嘱新作、合唱曲「木々のうた」（仮題、オッリ・コルテカンガスと私の共作）は、別の願いの表現です。この小さな地球の上で、人間がす



平成7年5月開館予定の静岡音楽館A O Iホール完成図

静岡音楽館 プロフィール

月々月々月々月

音楽を媒体とした 文化的なまちづくり

静岡音楽館（愛称・静岡音楽館 A O I）は、静岡中央郵便局との合築で平成3年度末に工事に着工しました。

中央郵便局の上部に本市の施設を建設するについて、どのような形にするか様々な意見がありました。県都静岡市の一等地であるJR静岡駅前の施設として、本市のまちづくり基幹施設として、静岡駅北口の再開発の起爆剤となり得る施設とはどのような施設であればよいのかについてです。結論は、人にやさしい、文化的なまちづくりを推進している本市として、世界の共通言語である音楽を通じて市民文化の向上を図りながら、各地へ情報発信でき得る場として、音楽専用ホールを選択したのです。

月々月々月々月

静岡音楽館 A O I で 全国各地へ情報発信

文化的なまちづくりのために、静岡音楽館 A O I ができることは何なのか。音楽を通じての情報発信とは何なのか。

静岡音楽館 A O I ではその答えの一つとして、通常の貸館だけのホールとは異なった形、つまり、音楽祭など様々な形態の事業を自主的に実施することにより、音楽による情報発信を行っていくことを考えました。静岡音楽館 A O I に人が集い、ゆったりとした気持で、素晴らしい熱のこもった演奏に感動する。このホールで育った若い演奏家が世界で活躍する。そしてこのホールで生まれた作品が各地で演奏される。また、市民自らがリハーサル室などで練習を積み、ホールや講堂でその成果を発表する、さらに、次代を担う子どもたちのために、公開レッスンなどの様々な事業を展開する。このような事業の積極的な積み重ねが、必ずや市民文化の向上につながり、文化的なまちづくりに役立つことと考えました。

月々月々月々月

事業の成否のカギは ヒトが握る

このような事業は長期的に、かつ継続的に実施することが一番重要なことです。そのためには音楽の専門家の知識や人的なつながりを吸収・利用しながら事業を展開する必要がありますし、また、市

民のためのホールでもあるのですから市民の意見を反映させる組織が必要です。これらの事情を勘案して、本市では、平成4年11月に作曲家の間宮芳生氏に芸術監督を委嘱し、そのほか企画会議委員を5名、市民会議委員を10名委嘱し、これらの方々に音楽祭の企画などをお願いしています。また、音楽館の職員として音楽の専門的知識を持つ、意欲ある職員を新たに3名採用しましたが、彼らには、市民の皆さんや芸術家と触れ合うことによって、自らの仕事に生きがいを見出し、創造的な施設とするためのいろいろな活動が期待されます。

月々月々月々月

11月1日から 利用受付を開始

合築施設のうち、静岡中央郵便局部分は先に完成し、10月24日にオープンしました。静岡音楽館 A O I 部分は12月中旬に完成し、その後パイプオルガンの設置工事を行い、全体が完成するのは平成7年3月末です。ホール利用の申し込みについては今年の11月1日から開始しました。オープン後は平成7年5月9日。開館記念行事として声明（しょうみょう）、ピアノリサイタル、弦楽合奏、狂言など様々なジャンルの公演からなる国際音楽祭を実施します。

問い合わせ：詳しくは、市役所社会教育課 ☎ 254-2111・内線4118
へどうぞ

筆者プロフィール

1952年東京音楽学校（現東京芸術大学）作曲科卒業。以来一貫して日本を代表する作曲家の一人。

日本と世界の民俗音楽の多角的探究としての個性的創作は内外で高く評価されている。毎日芸術賞、尾高賞、ザルツブルクテレビオペラ賞金賞など受賞多数。



べての生き物と調和して生きるため、また人間同士がさまざまな主張を超えて調和して生きるため、いま人間は生き方を根本から見直さなければなりません。今文化はそのための重い責任を果たさなければならない。何時もあからさまにはなくとも、この主張をいつも大切に考えてゆきたい。「木々のうた」はまずその最初の表現だと考えているのです。

ハンガリーからやってくる民族音楽グループ「ムジカーシュ・アンサンブル」は、民衆の創造性という芸術の大切なルーツを、実に楽しい形で心に刻みつけてくれるでしょう。また開館祝賀の法要でもある「声明」公演は、日本の音楽芸術のいちばん重要なルーツを示しながら、きっと深いところから心をゆさぶる感動を与えてくれると信じます。

何より静岡音楽館 A O I が市民に親しい場所になり、出演する音楽家や企画委員と市民との連帯が生まれることも私の願いです。また、ホールも、講堂（7階）、リハーサル室なども、市民たち自身の音楽活動に活用出来る場所です。さらに、自主事業のコンサートのリハーサルの公開、各種講座や公開レッスン、新しい才能を見つけ出すためのオーディションなど、企画はさまざまに展開していくはず

街の熱

夜になると、地上に星が咲きます。それは、人々が一日の疲れを流すシャワーのゆげ、あったかな夕食のにおい、大好きな家族の集まる夜の温もり。静岡ガスは、毎日の暮らしを支えるエネルギーの担い手として、すてきなこの街を大切に、見守り続けます。



静岡ガス

本社/静岡市八幡1-5-38 ☎284-4141

現代に生き続ける 人間国宝 芹沢銈介の美

日展会友、静岡大学講師 増田猪富
静岡県工芸家協会会長

増田氏は、芹沢銈介先生の教えを受け唐草模様を収集・復元し現代に活かしている数少ない工芸家の一人です。

また、300年の歴史をもつ唐草模様を調べていくうちに煙というものが重要な要素をなしていることが分かり、現在の仕事に活かしておられる方で「煙文化」の研究者としても知られる全国でもまれな方です。(石田1丁目在住、64歳)

静岡が生んだ偉大な染色作家芹沢銈介先生の生誕100年を迎えます。先生は多くの傑作、名作をこの世に残されました。その膨大な作品の生まれる素地は、若いころの努



▲増田猪富氏作品「飛翔」

力にあった様に思います。描いたスケッチが押入れに一杯になり、私の義父達友人が、その整理に通った話を聞きました。残念ながらそのすべては消失して残っておりません。

私が学生の頃、義父の代理で東京駒場の日本民芸館の展示替えの手伝いに、何度も行かせてもらいました。当時、柳宗悦、棟方志功、芹沢銈介等後世にその名を残した多くの先生達と一緒に。今思うと嘘の様です。その折用意した図案を持参し先生に見て頂きまし

た。「良いものを見つけ、模倣する事から始め、金にならない仕事をする事が大切だよ」と話されました。僅か2、3分の事でした。それは創る以前の幅広い基礎勉強であるという事で、先生の経験から生まれたアドバイスでした。その意味を理解するには、長い年月が必要でした。

先生は新しいものへの関心も人一倍強く、積極的に取入れ、見事に消化して「芹沢の世界」を大きくふくらませました。緻密な計画の上に豊富な経験を重ね、さり気なく創り出す見事さには頭が下がります。しかし、その折々では、そのすべてを理解する事は出来ませんでした。

以前日本現代工芸の地方会、神奈川静岡会が結成された折、私もその加入を勧められました。民芸から現代工芸への転向は

工房にて制作中の
増田氏▶



▲芹沢銈介作 風の字のれん 1957 芹沢銈介美術館蔵

悩みぬいた末、入会を決意しました。東京や横浜などの勉強会に参加する機会を得ました。それは井戸の中の蛙が大海に出た思いでした。

私も何度か日展に入選しました。振り返って見ると、「美を求める道は一つ」を実感しました。

何時しか私にとって、芹沢先生は最高のライバルの様に思えて来ました。目標は大きい方が良い。そんな勝手な事を自分に言い聞かせ、日夜好きな仕事を追いつけています。



「思い入れ」こそ、文化を育てる

シズオカ文化
クラブ代表 石川たか子

近頃、日本国中「ブカブカ」と騒がしいですね。かく申す私も友達と「シズオカ文化クラブ」をやっていますが。津々浦々に素晴らしい美術館、音楽ホールが続々と出来ています。文化イコール立派な建物を建てること、ではなくて中身こそ重要なんだ！という事を実行するために、他市に先駆けて静岡市文化振興財団が設立されたことは先見の明ありです。では、その中身についてちょっと一言。

私は、文化は自分達の足元を見つめればそこにあり、地域に根ざしているもの、その土地の人々の思い入れこそが息の長い創造性溢れる文化を育てていくのだと思います。各自治体は文化による町おこしに躍起になっています。そんな中で地域独自のものにスポットを当て官民一体で盛り上がっている所があります。お殿様のたった一枚の短い手紙「一筆啓上火の用心……」から今や手紙文化の発進基地となった福井県丸岡町。「一筆啓上賞」を設け、日本一「短い手紙文」の募集に3万余通の募集があったとか。以前訪ねた時は最古の天守閣を持つ丸岡城があるだけでした。もう一ヵ所私の女心をくすぐったおシャレな博物館は榛名

山の麓、群馬県の「榛東村耳飾り館」。縄文遺跡から日本最多の耳飾り(陶製)が出土したことからイメージを膨らませ、世界中のそして歴史あるイヤリングを夢を添え

市民のこえ



市民の財団へ会員制を提案

自営 西谷 祐一

静岡市が文化振興の推進母体となる公益法人の文化振興財団を設立し、スタートする運びとなりましたことを知り、市民の一人として喜ぶとともにぜひとも応援していきたいと思えます。

静岡市は文化都市を標ぼうしながらも、文化に対する市民の関心はあまりにも薄かったような気がいたします。県都でありながら市立の美術館もなく、ようやく静岡音楽館の建設を契機に文化振興財団が設立されることになったわけですが、遅きに失した感をぬぐえません。

その財団ですが、単に行政のり

て見せてくれます。

文化は町も人も生き生きさせる力を持っています。ますます長寿社会になりますが、皆んなが心安らぎ充実感のある毎日を送れるようにしたいものです。財団のスタッフと市民が一緒になって知恵を出し行動し、静岡市が「人間を大切にしたい文化都市」となるよう願っています。

ストラによるものでなく、真に市民が主体となった市民参加の組織でならなければならないと思えます。

市内には公民館、文化会館などで活動する多くの文化団体や芸術団体があります。そこで、こうした皆さんのご理解とご協力をお願いし、この財団へ会員として参加していただくことにより、財政基盤の確立を図るとともに、参加することによる意識の高揚が必要ではないかと思われます。

そのお手本は市社会福祉協議会にみることができます。今や財源の3分の1を自主財源、会員会費で賄い、福祉行政の一翼を担い、大きな力となっています。そして、市社協からさらに地域の福祉推進団体へとその輪を広げようとしています。

文化振興財団が地域に根ざした市民による市民のための文化財団になりますよう市民会員の募集を提案します。

INFORMATION

第8回街かどコンサート 「札の辻プロムナードコンサート」

主催/財静岡市文化振興財団
静岡市教育委員会
静岡市管楽器指導者協会

日時/平成6年12月23日(金)13:00~
場所/静岡市呉服町・七間町交差点(札の辻まえ)

回を重ねるたびに、参加団体の

熱演と相まってダイナミックな中にも繊細さを表現する演奏の美しさに誘われて足をとめる市民の皆様が増え、好評を得ております。今回は、クリスマスにちなんだ曲をお楽しみいただけます。

〈問い合わせ先: 054-255-4746〉



静岡市文化団体連合会会長
(財)静岡市文化振興財団理事

小川 治康

市民のための
文化財団を願って

私達は21団体、約2万人の会員と23年の歴史をもち創造活動を自主的に運営しています。財団の設立を心待ちし、財団の柱になるべくレベル向上に努力しております。この静岡のどこかで静かにペンが、筆がはしり、どこかで音楽が、踊りが、芝居が、熱く躍動しています。毎日、毎日どこかで必ず……。見る人から創る人を育てたいと願っています。どうかそんな私達の純な気持ちを反映する財団にさせていただきたい、市民不在の財団になってほしくない切望し、やや辛口ではありますがお祝いのごこといたします。

● 静岡市文化団体連合会構成団体

加盟団体名	代表者	連絡先 各入会等のお問い合わせはここへお願いします。			
静岡市演劇研究協議会	伊藤 幸夫	420	上足洗1-4-11	伊藤 幸夫	245-0350
静岡市華道連盟	栗野 松江	420	鷹匠3-12-8-702	水野 俊彦	254-8397
静岡市川柳協会	平山虎竹堂	420	大岩654-2	朝倉草太郎	245-2653
静岡市合唱連盟	宮川 努	420	平和3-6-9	宮川 努	271-7660
静岡市書道会	石川 清流	422	南八幡13-9	吉澤 玉泉	281-0552
静岡市写真連盟	海野 幸正	420	城東町41-18	松浦 茂	245-6095
静岡室内楽協会	青嶋 昭男	420	西草深町16-3	青嶋 昭男	253-6480
静岡市美術家協会	森 正一	420	北安東4-12-6	八木 清次	245-8682
静岡市俳誌連盟	松山 喜江	422	大谷3443-5	松山 喜江	237-2778
静岡花の会	増田 剛捷	421-01	向敷地640-11	増田 剛捷	258-0800
静岡市三曲協会	大場 晴山	422	登呂4-22-1	大場 晴山	286-4352
静岡親と子のよい映画をみる会	堀内 孝三	422	大谷3920-1	堀内 孝三	237-3141
静岡市洋舞連盟	前田 香絵	422	鷹匠3-3-5	前田 香絵	246-1593
静岡市クラフト協会	神尾紀久子	422	西島1263-4	森 淑子	283-6215
静岡市吟剣詩舞総連盟	田辺 東声	422	小黒1-10-27-5	牧元 紅峰	282-0477
静岡市民バンド オーケストラ連盟	渡辺 祐志	424	清水市草薙1036-34	渡辺 祐志	(0543)45-9856
静岡大正琴同好会	杉山 邦男	420	新通1-8-14	杉山 邦男	252-1783
しずおか寄席を育てる会	朝倉 敏雄	421-01	用宗2-15-9	朝倉 敏雄	259-7688
静岡茶道連盟	水野 宗雄	420	鷹匠3-8-2	横山 大山	252-0324
静岡市水石会	中谷 高光	420	材木町15	中谷 高光	271-6541
静岡ロックミュージック愛好会	平須賀康之	420	千代田7-4-26	平須賀康之	251-1234

■問い合わせ先：上記団体又は静岡市教育委員会社会教育課文化振興室内「静岡市文化団体連合会事務局」をお願いします。(☎ 054-254-2197)

●第17回全日本おかあさんコーラス全国大会で優勝

静岡フラウエンコーラ指揮者 藤井京子

甲子園で高校生が全国一の栄冠を競っていた8月21日、京都でおかあさんコーラス全国大会が催され、静岡フラウエンコーラはひまわり賞受賞、更に最優秀賞まで……。今年は各県から推薦された地区予選参加団体が、これまでの最多の694団体あり、その中でおかあさんコーラス日本一ということになり、指揮者として素晴らしい評価に、少しの戸惑いと大きな喜びを感じています。

おかあさんコーラスの質と量の素晴しさは世界に類のない

ものと言われ、1年毎に盛んになるにつれ、全国的に技術が向上し、地区代表に推薦される事が難しく、コンクール主義(技術偏重)の傾向にあったのが、本年はそれぞれ特徴ある合唱の方向に演奏がみられ、おかあさんらしい、女性らしい音楽構成が試みられて、その中で静岡フラウエンコーラの演奏と演出の完成度が好評だったようです。

近年、合唱界も中央から有名指揮者を呼ぶとか、技術向上を目指し活発な活動がありますが、私はあくまでも静岡の人と共に静岡の

人として合唱づくりをしていきたいと考えております。何と言っても歌っている人が一番楽しいものである事は確かな気がします。学校の合唱コンクールの審査員をつとめる私としては、技術の向上を願うのは勿論ですが、先ずは楽しく歌うことこそ一番教えなければならないものだと思います。そして合唱が生涯教育の大きな柱となれば一層素晴らしいと思っております。

[入会のお問い合わせは、牛木 琴(☎ 252-3004)にお願いします。]



わたしの秋は、ゆとり色。

しずぎん貯蓄預金

静岡銀行

お問い合わせは
静岡市文化振興財団へ
(市社会教育課内・☎255-4746)

第12回静岡市民芸術祭

主催/静岡市文化団体連合会
後援/静岡市教育委員会
会場/静岡市民文化会館
時間/9:00~16:30 (月曜休館)

第16回静岡市民芸術発表会	
日時/平成6年12月4日(日) 9:30~	最終日 16:00まで
場所/静岡市民文化会館・中ホール	最終日 正午まで
97団体、1,200人余の皆さんが民謡、日舞、洋舞、詩吟などの 芸能を発表します。ホールいっぱいに繰り広げられる演技をど うぞ、仲間をさそってご覧におこしください。	最終日 15:00まで
美術家協会展創立10周年記念展	最終日 15:00まで
菊花展	最終日 15:00まで
華道展	最終日 15:00まで
草花の額展	最終日 15:00まで
写真展	最終日 15:00まで
書道展	最終日 15:00まで
水石展	最終日 15:00まで
洋舞合同公演	最終日 15:00まで
静岡フィルハーモニックソサエティ公演	
劇団「炎」35周年記念公演	
琴静流大正琴演奏会	
静岡市民川柳大会	

『市民文芸誌』の発売と募集
についてのお知らせ。

- 毎年1回、市民の皆様からご応募
募いただいております『市民文
芸誌』48号ができました。
11月より発売を開始します。
お求めは、市役所新館売店でお
願ひします。
- 『市民文芸誌』49号の募集は、
平成7年3月1日から5月31日
までとなっています。
- 種目
小説、児童文学、随筆、評論、
詩、短歌、俳句、川柳。

東西南北ファミリー劇場の開催

主催/静岡市教育委員会
(財)静岡市文化振興財団
公演団体
静岡市サマーステージ協議会
劇団「静芸」
公演題名「ちびっこ魔女のぼうけん」
公演時間 各会場とも13:00開演
入場料/各会場とも「無料」
日程/10月9日(日) アイセル21
10月16日(日) 南部公民館
11月20日(日) 東部公民館

ユネスコ絵画教室の開催

主催/静岡市ユネスコ協会
会場/アイセル21、アトリエ
期日/毎月第1・第3土曜日
(原則として)
時間/13:00~15:00
対象/14~15歳以上の方なら、ど
なたでも決好です。
■インストラクターはブラジルの
ソウザ・アフォンソさんでブラ
ジルでは大学の美術を教える先
生です。
■参加料 1,000円
■お問い合わせは
静岡市ユネスコ協会事務局まで
お願いします。(☎ 254-2111)

舞台芸術公演「景清」-平家物語より-

- ・日 時/平成7年2月3日(金)・4日(土)・入場料/S席4,500円、A席4,000円
午後6時30分から
- ・主 催/(財)静岡県文化財団、静岡市
静岡市教育委員会、(財)静岡市文化振興財団
- ・会 場/静岡市民文化会館中ホール
- ・出 演/劇団SCOT及び水戸ACM劇団
- ・問 い 合 わ せ 静岡市教委社会教育課 (☎254-2111)

Access to the Future.



おかげさまで
静岡鉄道創立75周年
SHIZUTETSU GUROUP

弊社は、大正8年5月1日に駿遠電気株式会社として発足し、今年、創立75周年を迎えました。これも、ひとえに皆様方のご支援とご協力のたまものと厚くお礼を申し上げます。なお、弊社は今後も地域の皆様と共に歩み、事業を通じて地域の発展に寄与してまいりますので、これまでと変わらぬご支援、ご協力をたまりませうお願い申し上げます。

SHIZUTETSU GUROUP

- 東海自動車工業株式会社
- 株式会社新静岡センター
- 株式会社御前崎サンホテル
- 静波リゾート開発株式会社
- 株式会社狐ヶ崎ヤングランド
- 株式会社藤枝ゴルフクラブ
- 駿遠運送株式会社
- 静鉄運輸株式会社
- 港運輸工業株式会社
- 静鉄タクシー株式会社
- 静岡観光バス株式会社
- 清水交通株式会社
- 静鉄観光サービス株式会社
- 株式会社静鉄自動車学校
- 静鉄建設株式会社
- 静鉄商事株式会社
- 静岡トヨベット株式会社
- トヨタカーローフ東海株式会社
- トヨタビスタ東静岡株式会社
- 株式会社静鉄情報センター
- 掛川バスサービス株式会社
- 静鉄小型バス株式会社
- 株式会社喜久屋

静岡鉄道株式会社

編集後記

市役所14階の手洗いに行くと、コーヒーの空びん(廃品利用)に野の花や時には高価と思える花が活けてあります。廃品利用の花びんに野の花の一輪を活ける人の心。精いっぱい咲き誇っている花。そして多くの人が美しい花をみて美しさを味わっている心。こんなところに「文化の心」があるのではないかと思います。花を活ける人の、心からの「もてなし」が多くの人の心に安らぎを与えてくれます。今回は創刊号でもあり、財団の紹介が中心になってしまいました。次号からは幅を広げて情報をお届けしたいと思います。

静岡文化情報『街かど』 創刊号
平成6年11月10日

編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420 静岡市5番1号
静岡市教育委員会
社会教育課内
TEL・FAX (054) 255-4746
印刷 株式会社 三 創
静岡市中村町166-1
禁無断転載・複写

県民とともに。

静岡新聞・SBS静岡放送

本社／〒422 静岡市登呂3丁目1-1 ☎054-284-8900 (総務部)
支社／東京・大阪・名古屋・浜松・沼津

これからも、あなたと、走り続けます。



東海道新幹線は開業30周年を迎えました。
ビジネスにレジャーに、いつも暮らしの
1ページを皆さまとともに歩んできました。
安全に、快適に、より速く。これからも
JR東海は、あなたといっしょに走り続けます。

東海旅客鉄道株式会社 静岡支社